

平成30年度 第1回学校関係者評価委員会 議事録

日時：平成30年10月16日 14:00～15:00

場所：5階カンファレンスルーム

出席：学校関係者評価委員 A～F 7名 欠席：G委員
(学内) H～L 5名

書記 介護福祉学科教員

1. 校長挨拶

昨年度審議いただいたことを実践的な職業教育の質の改善につなげ、今年度の国家試験の結果は看護学科、介護福祉学科ともに全国平均を上回ることができた。今年度の新生は、看護学科9期生50名、介護福祉学科22期生26名を迎えることができた。今後も、私共の内部評価を委員の皆様へ審議いただき、教育の質を上げるPDCA回していきたい。その中の課題として、前回お知らせをした「専門職大学」の認可結果が報道された。来年4月に開校できるのは、17校申請した中で、教育内容や施設設備の不足、要件を満たさない教員採用等総じて準備不足とされ、14校が申請を取り下げ、2校が保留となり、1校のみ認可された。高知県土佐市の学校法人高知学園高知リハビリテーション専門職大学校。審議会会長は「大学教育としての内容が不十分で、社会的な使命を果たすことが難しい申請内容が多かった」とコメントされていた。専門職大学は、大学のうち、深く専門の学芸を教授研究し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開させることを目的とする新たな高等教育機関として昨年5月に制度は創設された。新しい学校種だが、認可結果からは既存の大学との相違が曖昧な気がする。看護、介護の領域はすでに大学教育として先行しているため、新しい専門職大学も注視しつつ、専門学校としての社会的使命を果たすことに専心して参りたい。本校で学ぶ学生達が患者さんや利用者さんから喜ばれる専門職に育てるために、産・官・学、委員会の皆様をはじめ病院・施設・専門職団体・行政の方々としつかり議論をさせていただき学校運営にあたりたい。

J委員：資料の確認 レジюме・資料1, 2, 3

2. 委員自己紹介

3. 議事

【議題】

(1) 2018年度の重点課題・・・資料1

I委員：昨年度、第2回目の学校関係者評価委員会で報告した、2017年（平成29）年度の学校自己点検・自己評価結果から教育の内容や学生支援、社会的活動の更なる充実が求められている。更に、看護学科50名、介護福祉学科26名と定員を満たしていないことから重点課題に学生募集を加え、2018年度の資料に示している4項目に定めて現在取り組んでいる。

学生募集については、

① 本校の特徴が最大限にアピールできる発想豊かな企画の導入

② 来校者増に向けた会場・学校ガイダンス等からの導線の構築

現在は、高校訪問や高校ガイダンスからのOCへの誘導に力を入れている。来校者数は、目標値に達している。参加者の反応も良く、アンケート結果も高評価を得ている。

教育内容の充実では、

① 各学科、各学年の国家試験対策の確実な実施

② 教育内容のマトリックスと各教科のコマシラバスの照合による教育内容の精選

③ 社会人基礎力の育成・強化を図ると共に、専門職業人に必要な態度教育の充実

資格取得実績や就職実績が学校選択の重要な視点であることから国家試験対策やビジネスマナー教育を計画的に実施している。

学生支援体制の充実では、

① 学生の相談受入れ態勢の充実、教職員間の情報共有、総合サポート室との連携による学生の生活環境の調整

② 保護者や企業、高校との連携の強化と継続的な学生支援体制の構築

③ 就職委員会を窓口としたキャリアサポート体制の充実

I 委員： 在校生のアンケート結果から就職支援の更なる充実が求められており、全体指導に加え今年度は、就職委員が願書の添削や小論文の添削、模擬面接等を行い、学生個々のサポートの充実を図り順調に就職状況の内定をいただいている状況。今後は、学生個々のキャリアサポート体制の充実が図れるように努めたい。積極的な社会貢献活動では、

- ① 高校との教育連携をとおした看護・介護の魅力発信
- ② 地域住民への積極的な福祉・医療に関する情報の発信、健康管理、介護予防などの啓発活動の実施

高校との連携講座は現在、5校と連携を持っているが、本校で対応可能な11講座を紹介している。また、地域の民生委員や自治会と協力した健康管理に関する啓発活動を実施している。

A 委員：重点課題の4項目に関する質問はあるか。

A 委員：学生の相談の受け入れ体制についての窓口は教員が行うのか、あるいは特別なカウンセラーが行っているのか。

I 委員：まずは、学校の教員で対応を行っているが、本部に心理学・カウンセリングを専門にしている職員がいるため、相談支援部が対応をしている。学生のダイレクトなメール発信による対応も可能である。

B 委員：学生募集に力を入れているようだが、積極的な社会貢献活動の中で、高校との教育連携等、どのように個別支援、関わりを行っているのか。

I 委員：高校との連携は業者を通していないものもあるが、業者を通してのものもかなりある。OCにまず来てもらうこと、学校を見てもらうこと、教員と学生がどのように学校生活を送っているのか、教育の特徴などを実際に体験し見ていただくと、併願している学生が「ここがいいな」「私に合うな」と選んでくれている現実がある。ガイダンスやパンフレットによる説明だけで選ぶと良さが伝わらないため、OCに来てもらえる働きかけに力を入れている。高校の教員対象説明会や学生と共に母校訪問を行い高校教員に対する教育のアピールを行っている。

E 委員：関連する話であるが、職員の採用試験の際は、介護を必要とする人に携わる人間として考える作文を書いているが、内容に対する誤字、脱字が多い。何かいい方法はないかと常日頃から思う、できるだけワープロを使わなくて済むような訓練が必要だと感じることもある。文章を構成する語彙が豊富ではないことから教育の評価を下げているような気がする。本読みや新聞を読まないなどの要因が考えられる。また、じっくりと物事を考えるという努力の無さも感じることもある。これらのことから、職員へは反復学習をするように指導をしている。

議題（1）について、全員一致で承認する。

議題（2）在校生のアンケート結果

I 委員：資料2をもとに説明する。

A 委員：在校生のアンケート結果について感想や意見はないか。

C 委員：挨拶や時間厳守、生活態度の基本など、2018年度の重点課題と連動して成果が上がっていると思う。

I 委員：社会人基礎力は、企業の方からの要求もあり、社会人として育てていくというところに課題があるため、看護学科も介護福祉学科も挨拶からというところから力を入れている。

A 委員：実際に職場に入り人間関係を構築する最初の窓口の話について意見や感想は無いか。

D 委員：実習受け入れ施設として感じることは、学校の教育体制が変わってきていることが伝わってくる。当施設では、面接を待っている学生にも目を向け、トイレに行っている時の行動を、偶然を装い職員が観察する等、第1印象の確認することを行っている。患者と接する際の1番重要視される挨拶は、信頼関係を結ぶために大切である。また、授業に入って感じることは、学生自身が変わってきていて、実習生を受け入れる働く側の意識も変わってきている。学ぶ姿勢を大切にする学生は、礼儀もきちんとしている。あたりまえのことがあたりまえにできる人をみんな育てていく。

課題（2）について、全員一致で承認する。

議題（3）入学生のアンケート結果

I 委員：資料の3に基づいて入学生アンケート結果を説明する。

A 委員：入学生のアンケート結果について感想や意見はないか。

A 委員：看護学科も介護福祉学科も進路を決めることが高校 2 年生の夏休みという結果があった。OC に来て説明を聞いて個人的に進路を決めていることが多いということか。

I 委員：そうである。卒業学年を重点的に出願に繋げたいと考えているが、進路決定はアンケート結果で 2 年生の夏が多いことから、2 年生をターゲットとした OC の取り組みも考えて行かなければならないと考える。

D 委員：高校生や中学生が職場体験に来た際は、その時点でしっかりとした意志を持っていることが多い。その傾向は、高校生は 2 年生が多く、中学生は 3 年生が多い。また、両親と共に、入学を決める学校選択では各校の国家試験合格率も確認すると聞いている。

A 委員：保護者の立場からの意見は無いか。

F 委員：先日、他校の生徒が実習に行った際の出来事ではあるが、その時の対応方法を聞かせていただきたい。その出来事は、生徒が実習に行った時、実習靴を忘れてしまったという状況であった。その時に引率の教員と看護師長が関わり、生徒と話しをした時に、教員からは実習靴を忘れたため実習をせず、家に帰りなさいという指導を受けた。その時の生徒に対する良い指導法を聞かせていただきたい。

D 委員：忘れ物は実際によくある。白衣を忘れてたり、白衣を汚してしまったりすることがあるが、そういう時こそ生徒には、人のありがたみを感じていただきたいと思う。学校の考え方や病院、施設の考え方があるものの、現在、実際に行っていることは代替えを探すことにしている。また、他の生徒とユニホームが違ってても恥ずかしくならず実習に取り組むよう指導を行う。本人が恥ずかしいという気持ちから実習が行えないというのであれば実習を中止するが状況判断は、本人に任せている。貸したものを本人がどのような返し方をするのかも見ている。そのため、忘れ物が発生した際に実習を中止するという事は、行っていない。ルールとして決めている。どのようなことがあっても、受け入れ態勢を整えて、患者が実習生を待っているため患者に失礼の無いように対応をしなければならぬと感じる。本人が、次からどうするかを自分自身で考えて判断する力を身につけていただきたいと思う。

F 委員：話の結果としては、生徒の忘れ物に対して看護師長が代替えを探して対応してくれ、実習を行うことができた。ただ、引率の教員から実習を中止して帰りなさいという指導を受けた生徒は、実習の日程等が気になり、混乱をした。その状況で、看護師長が求めていたことは、引率の教員が生徒に対して怒るばかりで、忘れ物をしたことを責めるだけでは無く、生徒と一緒に「すみません」と謝る姿勢を見せてほしいと言われた。生徒はその姿を見て教員に対して申し訳ないという気持ちが湧くのではないかと。失敗に対して次に間違えのないように進めていくことを考える方が人を育てる側として良いのではないかと、という話を聞くことができた。そのため、実習に臨む生徒に対しては、自身の中で確認をしてほしいということをも身につけてもらえる指導をお願いしたい。

L 委員：先日、文化の違いを感じる出来事があった。忘れ物をした学生については、先ほど話があったように実習先で貸していただくことがある。また、学校としては「取りに帰りなさい」という対応が多いと思う。昨日の出来事で学生が施設へレクリエーションの実施を行いにいく際に、実習着を忘れてしまった留学生が、担当教員に電話連絡で「今から、施設に実習着を持って来て下さい。私のロッカーの番号は〇番だから開けて持って来て下さい。」と言ってきた。実施が終わった後に、その留学生へは準備性について指導を行った。日本人の感覚とベトナム人の感覚の違いを感じる出来事であった。学生には、授業をうけるときにテキストを忘れ日頃の積み重ねが大切であることを指導していきたいと思う。

議題（3）について全員一致で承認

(4) その他
特になし

J 委員：今年度、次回の会議は、年明けの 2 月頃を予定している。